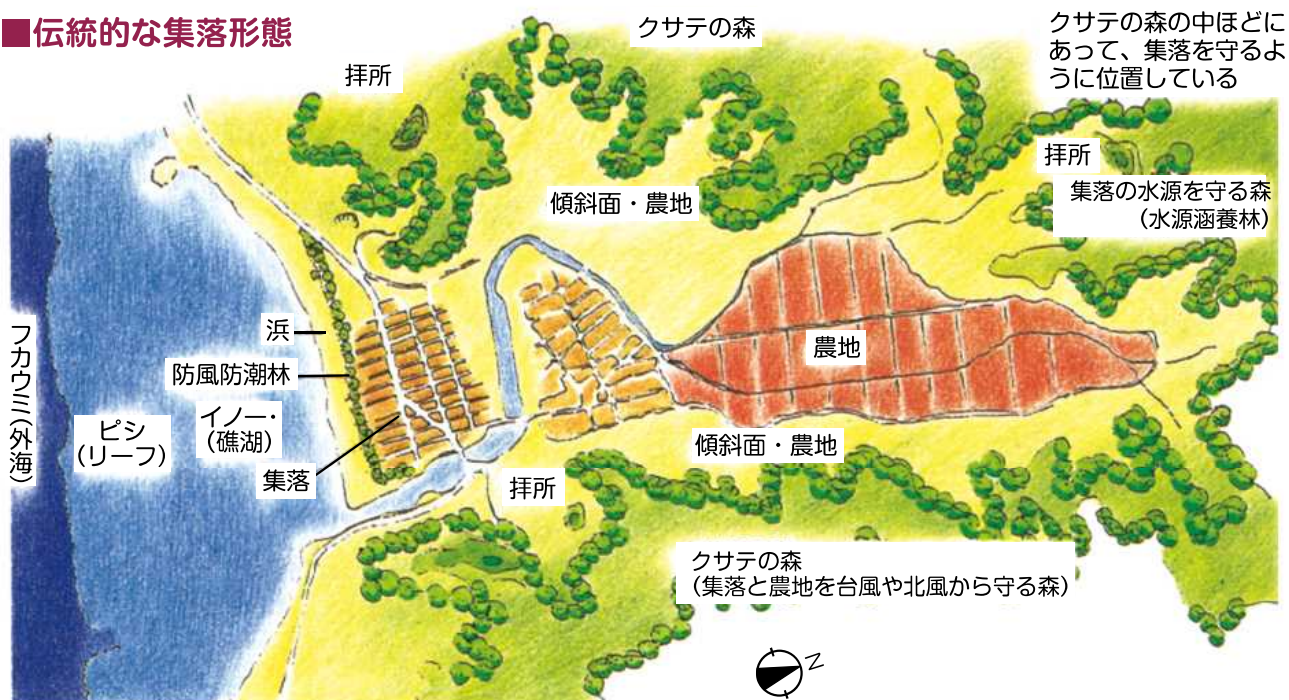


第一章 沖縄の風土・自然条件

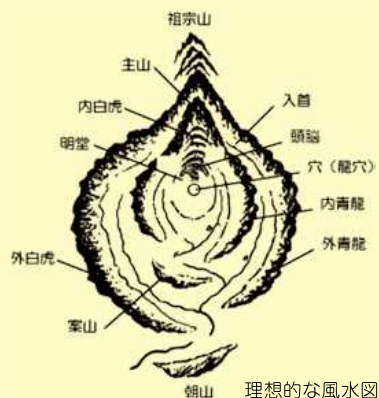
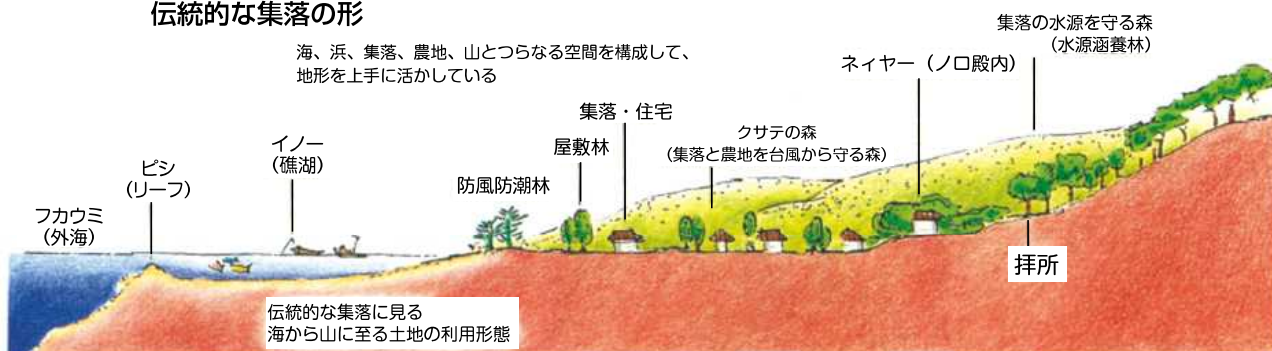
1-1 沖縄の風土

伝統的な集落や住宅の持つ様々な工夫と知恵を学び、郷土の自然環境を理解することが、沖縄の風土に見合う住まいづくりのはじまりです。台風・白蟻・湿気・暑さ・寒さに対応した様々な知恵をこれからの住まいづくりに引き継いで活かしましょう。

■伝統的な集落形態



伝統的な集落の形



～沖縄の風景基盤としての風水思想～

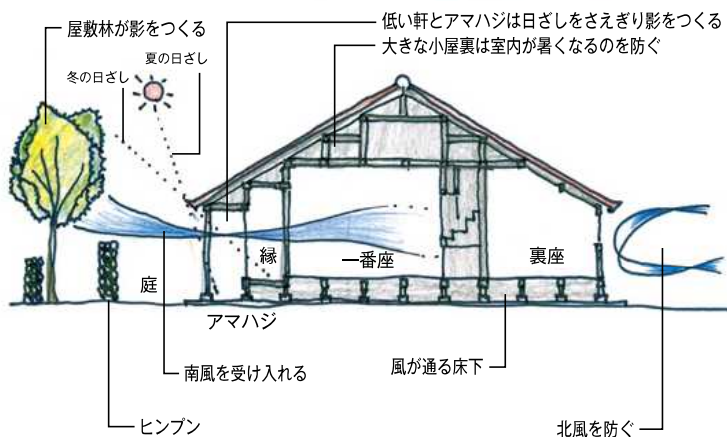
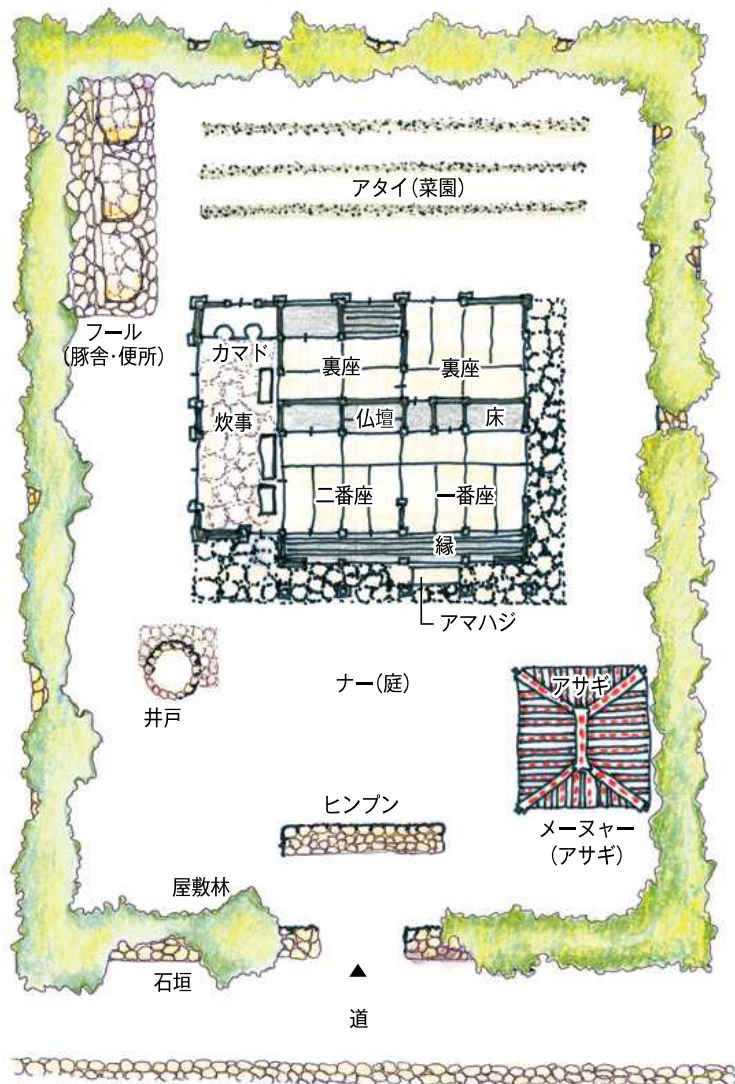
琉球王朝時代、中国、東南アジアからの風水思想は、人間が生存可能な環境秩序を保つ空間計画に大きな影響を与えました。山、丘、水流の地勢を視察し、最も吉相とみられる都城、住居、墓をつくる技術として実践され、その系譜は、沖縄の伝統的集落環境を構成して実を結びました。この思想が今日の沖縄の風景基盤を支え、伝統的風土性の「らしさ」を形成する環境形成の手段として活かされています。

日本建築学会沖縄支所資料より抜粋

■伝統的な民家形態

伝統的な民家に見る間取り、配置、断面

- ・敷地の南を大きく開けて風や光を呼び込んでいる
- ・アマハジと縁で彫の深い表情をつくっている
- ・ヒンプンは中と外を柔らかくつないでいる
- ・屋敷林や石垣は、台風から住宅を守っている



沖縄の風景



国頭村 奥の集落



久米島の民家



首里 金城町石畳



魔除けシーサー

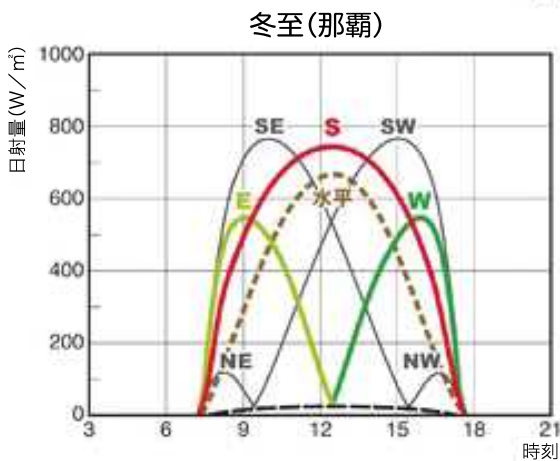
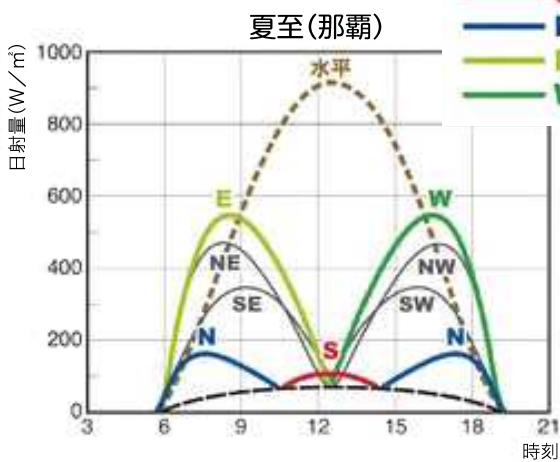
1-2 沖縄の自然条件

風の流れ、太陽の動き、気温の変化、降雨の状況等の自然環境を学びましょう。そこには沖縄の風土に適した住まいを考える様々なヒントが隠されています。

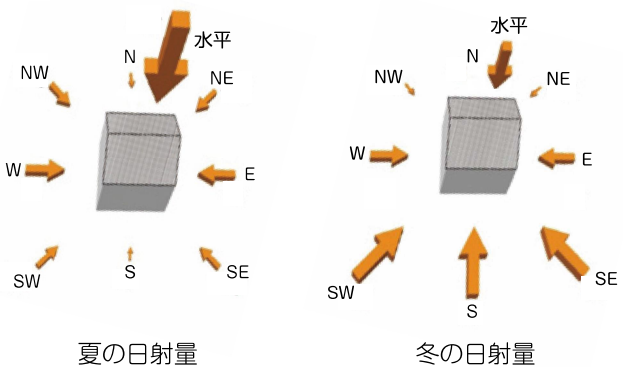
夏の風を取り入れ、冬の北風を遮ることは、特に大切なことです。



■季節による日射量の変化



各季節晴天日の日射量
「建築設計資料集成1 日本建築学会論1978年」



日射をコントロール

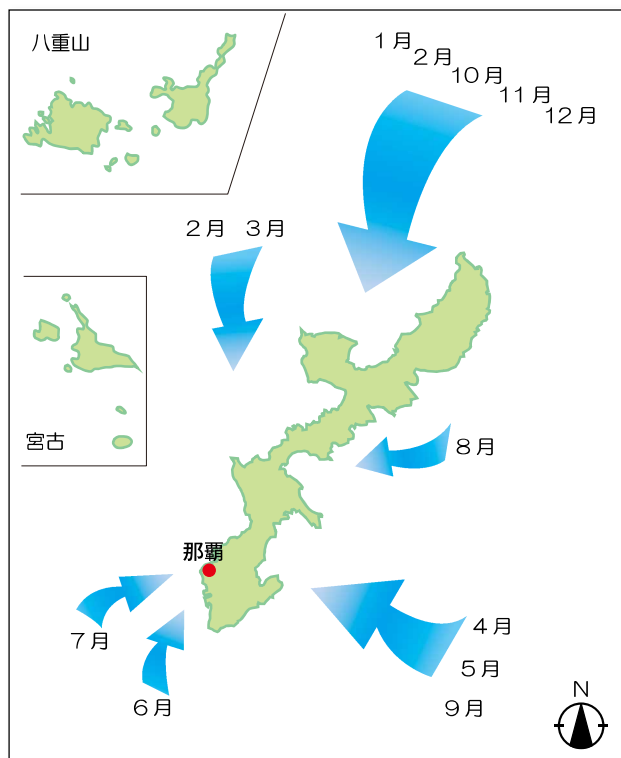
夏季において、太陽高度が低い西日は、室内の奥まで届くため、上手に遮蔽することが重要です。一方、冬季においては、日射を屋内に取り込むなど、うまく日射をコントロールして自然光を利用すると、省エネにつながります

南中時は日射が強い



太陽が真南に来ることを「南中(なんちゅう)」といい、日射が通過する大気層が短くなるため日射が一日のうちで一番強くなります。夏至の太陽の南中高度は、冬至に比べるとずいぶん高い位置にあります

■月ごとの風向きの違い 2005～2014年(那覇市):気象庁データ



月ごとの那覇市における気象データ

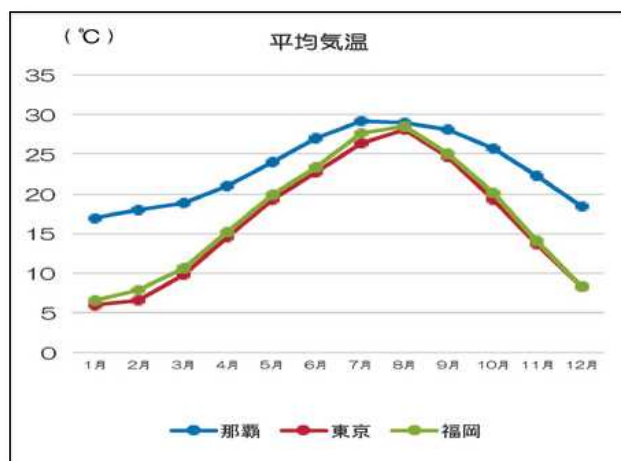
太平洋側・東シナ海側・各離島等、地域によって、月ごとの風向きは多少異なるものと考えられます

また、時間帯によっても異なり、ここで示す月ごとの風向きは、頻度の多い方向を示しています



中村家住宅 屋敷囲いの石積みと植栽で建物を強風から守っています

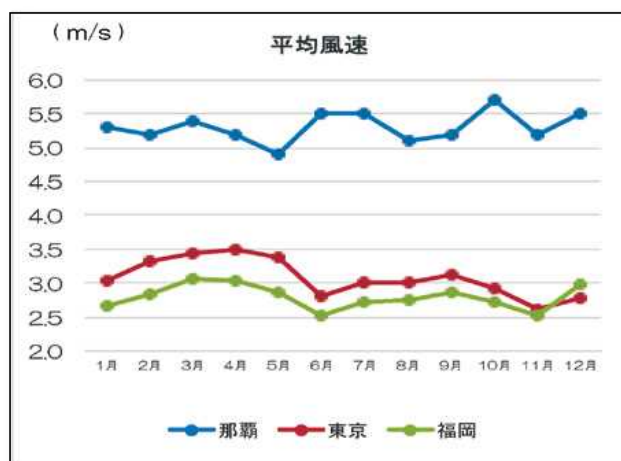
■月ごとの気象条件 2005～2014年(那覇市):気象庁データ



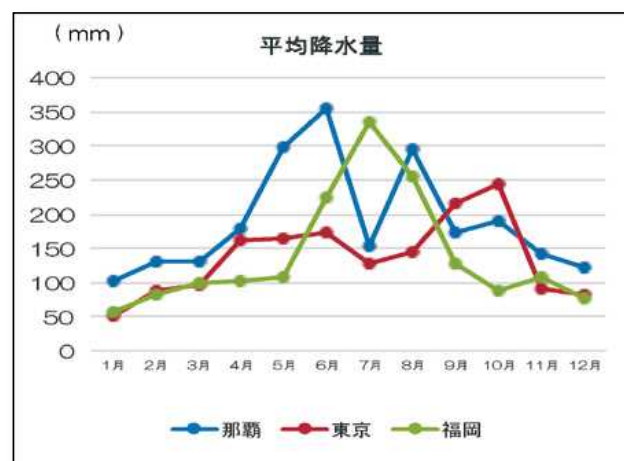
平均気温は他の地域に比べ10℃近い差があります



1年を通して湿度が70%を超える月がほとんどです



他の地域に比べ、年間を通して風が強く吹きます



他の地域よりも降水量の多い月がほとんどです